

第10回貨物運転士交流会開催！

2011年6月23日～24日と一泊二日の日程で、第10回貨物運転士交流会が東京で開催されました。当初の計画では、「今年は東北の地で」の開催ということで準備を進めていましたが、3月11日の東日本大震災で開催も危ぶまれる中、関係者の尽力により開催することが出来ました。急きょ開催を東京としたことで、会議は交通ビル会議室、宿泊は水道橋のホテルとなりましたが、大震災後の原発事故による放射能漏れ事故が続く中で、完全復旧には程遠い時期ではありましたが30名近い仲間がこの交流会に結集しました。



主催者挨拶として立った東日本運輸協・木立議長から、冒頭東日本大震災により不幸にもなくなられた方々、また被災された方々に対しお悔やみとお見舞いを申し上げますと、挨拶があり大震災による津波の状況がテレビ等を通じて流され声も出なかったとの発言で参加者一同改めて当時も思いをかみ締めました。その中でも、貨物・旅客運転士は最後の責任を負う立場から大変な思いの中、身に危険を感じつつ行動をとったこと、マニュアル通りの結果、亡くなった方々や地元の人々の意見を尊重して助かった人々など紙一重の差を実感した。改めて検証が必要であり、連絡が取れず指令の指示がない時の行動についても議論してほしいと結びました。

続いて挨拶に立った東日本・武笠調査部長からは、東日本本部を取巻く情勢等の報告をいただきました。特に、大震災後の物流の復旧で大きな役割を担った貨物輸送に貢献した貨物労働者に対する春闘・期末手当回答についてと、安全問題では大震災前の貨物脱線事故に触れました。貨物運転士の要求として、「統一した保安機器とすること」は、各社にまたがって運転している運転士の切実な要求であり、事故の撲滅から見ても重要と発言がありました。

次に開催地である東京地本からは松川書記長が参加され、挨拶を受けました。私も元は機関士出身で皆さんと同業でした。大震災時の貨物輸送が果たした役割の重大性や、常磐線では今も原発事故で開通のめどすら立っていない現状、東京としても事故後の復旧問題で会社に要求を整理して提出して



いく、組織拡大では昨年の大会以降6名の仲間を迎えたが今後も最重要課題として取り組んでいく等の挨拶を受けました。

また、今年は運輸協全国連絡会から清水会長じきじきの参加(西日本出身)があり連帯するご挨拶をいただきました。

その後、具体的内容に入り全貨協・真田議長からこの間の貨物協議会の取組みと問題提起を受けました。

春闘では、3月11日の大震災当日第3回の春闘交渉中だった。その中では、今年は3期ぶりの黒字達成で定昇・期末手当の出せる要素はあると主張してきたが、大地震でその後の行動を中止せざるをえなくなり、会社回答に対する決断となった。会社は夏季手当1.58ヶ月プラス0.05ヶ月を出してきた。

事業計画では、3月3日に2011年度の事業計画を出したが、大震災の関係で大幅に見直しを行うとしている。政府の補助金も、10年で700億円の計画があるが、老朽化した機関車を取替えていくとしている。

中期経営計画では、社外には説明していない。3カ年で500名、当面4千名体制を構築し

てとしている。

ダイヤ改正では、新しい乗り継ぎ計画を、今年は断念した。(試行を行い、監視時間のカットで要員減を狙ったもの)

DL運転士の現地出勤(入換運転士)も今年は見送りとなった。

SASでは、扱いをより厳しく強化していくとしている。

その後、提起を受け各職場からの発言となりました。

<東日本大震災関係>

- ・大地震の後の津波で、で全ての通信機器が使用不能となった。津波でコンテナ・機関車が流され、独自の判断で逃げた運転士もいる。
- ・出先で大震災に合い、3日間帰れず、家族とも連絡が取れず大変な思いをした。
- ・勤務については、災害扱いを現場が判断してやっていた。
- ・震災で鉄道が動かず、自宅待機が続いたが、その後東北線は開通、暫くの間は手書きの時刻表を持たされ臨行路の仕事をしてきた。手書きの時刻表が続いたのは問題があるのでは。
- ・海沿いの線路が多い中、もしもの時はどこに逃げればよいか考えておくべき。横浜・根岸では高台に避難した。
- ・災害時ということで乗務線区の拡大が行われた(通常時にも拡大してくるのでは)

<SAS関係>

- ・今までの判定では乗務は出来ていたが、ダメになり厳しくなっていると実感している。
- ・検査時期が花粉症発症時期と重なっている。ずらせないか。
- ・再検査を受けると必ず機器を持たされるようになった。

<要員関係>

- ・職場は60歳以上の嘱託社員が多くなった。今後の見通しは。
- ・貨物会社発足時2900名体制の運転士が、今2000名体制となっている。ダイヤ改正ごとに乗務キロが伸ばされ、限界だ。
- ・DL乗務員の養成が少ない。計画を出させてほしい。

<春闘では>

- ・期末手当プラス0.05ヶ月分は定昇の未払い分としないでほしい。

<安全問題では>

- ・ATS-P導入では、JR各社で扱いが異なっていることから事故も発生している。保安装置の統一は出来ないものか。



最後に、まとめとして真田議長から

震災時の勤務扱いは、本社から指示が出された。通勤障害も5日以内だが今回は5月末まで拡大している。

新しい乗り継ぎ方式は、施行後新鶴見で導入の話も流れたが、見送られた。

SAS関係では、検査が厳しくなったが、反面これによる事故も起きている現状もある。

ATS-Pの統一については今後も追及していく。

貨物の新しい指針が出されたが、問題点については、交渉していけるよう準備する。その他、組織拡大・定期昇給未払い問題等の発言がありました。

予定時間の17時があっという間に来てしまい、宿泊ホテル(水道橋)へ移動し、会食交流へと続き、交流では久しぶりに再会した面々が、やはり東日本大震災時の出来事を中心に、お互いへの激励と今後の展望について議論を深め合いました。

交流会参加の皆さんご苦労様でした、みんなで力を合わせて震災を乗り越え展望を切り開きましょう！

